

学生フィールドワークの事前学習で農林水産施策をレクチャー

高校生が中山間地域でフィールドワークを行うことから、中山間地域の課題やみどりの食料システム戦略の基礎知識を出前授業においてレクチャーし、理解醸成を図った。

○ 施策分類

中山間地域振興、みどりの食料システム戦略

○ きっかけ・背景、課題の把握

令和5年6月、当拠点でも出展した「OKAYAMAつながる市」で繋がりのできた県内私立高等学校の教諭から、生徒が参加する中山間地域でのフィールドワークの実施について話があった。事前学習に協力する方向で協議し、出前授業を行うこととなった。

○ 取組の内容

同校に農業系の学科はなく、農家以外の生徒が中心であるため、中山間地域や岡山県の農業の状況に関する情報を持っていない。

このことを踏まえ、生徒自らの考えでフィールドワークに取り組めるよう、地域の現状や多面的機能といった情報のほか、「みどりの食料システム戦略」について、7月下旬に授業を実施した。

○ 効果・成果、今後の方向性

生徒にとって、授業は新鮮な内容であった上に、フィールドワーク（8月上旬）において、過疎化、高齢化などの現状を目の当たりにしたことで更に関心を持つきっかけとなった。

その後、参加した物販イベント（10月下旬）では、学習成果を紹介するなど、理解醸成が進んでいる。

今後も県拠点として、同校へのフォローも継続するほか、農業系を問わずあらゆる学校に向け、「みどりの食料システム戦略」の啓発を中心に働きかけを進めていく。



出前授業を熱心に聞く生徒

学習成果を紹介する様子

体制図

